

解題

一、はじめに

今回の目録では、当館収蔵の四国遍路に関する資料及び関連資料のうち、整理が終了した資料を収録した。

目録は、資料の内容によつて分類し、各分野の中で絵図、書籍、刷り物等の形態別に分けて掲載している。四国遍路に関する資料は、次のように細分類した。

(一)、四国遍路関係資料

四国遍路の絵図、案内書、本尊図、道中記など

(二)、遍路用具

遍路が道中に携帯した札挟み、納め札などの用具類

(三)、遍路宿関係資料

遍路宿の宿帳など

(四)、札所関係資料

札所を描いた絵図、靈験記など

(五)、地四国関係資料

地四国の絵図、案内書など

(六)、弘法大師関係資料

弘法大師に関する書籍、刷り物など

(七)、巡礼・参詣関係資料

四国遍路以外の巡礼・参詣に関する資料

(八)、その他

(二)～(七)の分野に属さないもの

二、資料の概要

(一)、四国遍路関係資料

四国遍路に関する資料は、絵図が一三点、書籍が二二点、刷り物が二点、掛け軸が一点、道中記・順拝記録が六点、民具が一点、文書が二点、レコードが一点、屏風が一点、ポスターが一点、写真が一点である。

絵図のうち、江戸時代の刊行及び刊行と思われるものが八点、他の五点は昭和期の刊行及び刊行と思われる。江戸時代の絵図のうち、刊行年が判明するものは細田周英による『四国徧礼絵図』¹⁾である。この『四国徧礼絵図』を模倣した絵図は二点で、いずれも近畿地方から四国を見た構図となっている。

また、三点の『四国遍路道中図』のうち一点は、昭和初期の遍路の所持品である。

書籍のうち、江戸時代の刊行及び刊行と思われるものは五点で、そのうち四点が『四国徧礼道指南増補大成』及びその系統本である。

道中記・順拝記録のうち、「四国西国順拝記」は、当館の研究紀要で資料紹介されている²⁾。また、江戸時代の遍路の所持品が二点、昭和初期の遍路の所持品が一点ある。

民具の項に収録した二ナイと、二点の文書は、いずれも寄託資料であり、『愛媛県史 民俗編』³⁾及び『おへんろさん―松山と遍路の民俗―』⁴⁾でも紹介されている。二ナイは、接待用にモチを入れて運んだものである。また、二点の

文書は行き倒れた遍路に関する資料である。

写真のうち一点は、遍路を終える記念に撮ったもので、昭和初期の遍路の所持品に含まれていた。

(二)、遍路用具

遍路用具及びその関係資料は、札挟みが九点、手甲・脚半・遍路用の運搬具が各一点、頭陀袋が二点、四国霊場会の先達章が三点、数珠が一点、杖が二点、御影帳が一点、納め札が一八点、講中札が二二点、納め札に関する資料が一点、納経帳が六点、讃仏歌集が一点である。

なお、この分類に収録した資料のうち、講中札以外の資料は、遍路の所持品として一括で受け入れた資料が多い。この一括受け入れ資料は三件あり、年代は文政一一(一八二八)年、明治三四(一九〇一)年又は大正三(一九一四)年、昭和一一(一九三六)年と分かれている。他に所持品があった可能性もあるものの、江戸時代後期、明治末期、昭和初期という各時代における遍路の旅の実態を示唆する資料といえる。これらの一括受け入れ資料のうち、遍路用具類は本分類に収録したが、絵図や刷り物など、その他の資料については、各内容に基づく分類項目に収録し、備考欄に一括受け入れ資料であることを記した。

九点の札挟みのうち、二枚の板を合わせて紐を通した板状のものが五点、蓋を付けた箱状のものが四点である。板状の納め札のうち、最も使用年代が新しいものは明治四四年又は大正三年である。また、伊方町に現存する一〇名の遍路が写った写真では、板状と箱状の両方の札挟みが用いられている。^⑤

この写真は、大正九年の納経帳に挟まれていたため、同年の写真と仮定すると、明治後期〜大正期に札挟みの形状が変化した可能性がある。他の資料館に現存する札挟みからも、同様の傾向が見てとれる。

講中札には、作成年と使用年が異なるものもあるため、年代欄でその区別を行った。また代参人欄に氏名が記されているものは備考欄に記した。

なお六点の納経帳は、いずれも遍路の所持品の一括資料の中に含まれていた。当館では他にも納経帳を所蔵しているが、整理中であるため本目録には収録していない。

(三)、遍路宿関係資料

遍路宿に関する資料は、宿帳・ピラが各一点である。

一〇冊の宿帳は、いずれも久万高原町下畑野川の大黒屋のものである。^⑦また、遍路宿のピラは、昭和初期の遍路の所持品の一つである。

(四)、札所関係資料

札所に関する資料は、絵図が九点、書籍が二点、刷り物が六点、文書が四点、書簡類が二点である。

九点の絵図は、年号の入っていないものも含め、いずれも明治時代以降の製作と思われる。また、絵図のうち三点が遍路の所持品である。

刷り物のうち三点は明治末期〜大正初期の、一点は昭和初期の遍路の所持品に含まれていた。

文書はいずれも勸進帳又は勸化帳である。

(五)、地四国関係資料

地四国に関する資料は、絵図が六点、書籍が五点、刷り物が一点である。

地四国の場所別に分類した資料点数は、御室四国、篠栗新四国、小豆島新四国が各二点、御府内八十八ヶ所、夜須郡新四国、相模国新四国、美濃国新四国、武州秩父郡上州甘楽郡大師八十八ヶ所、下総国相馬郡小文間村新四国が各一点である。

(六)、弘法大師関係資料

弘法大師に関する資料は、書籍が一〇点、卷子が一点、掛け軸が三三点、刷り物が五点、写本が一点である。

書籍のうち、江戸時代の刊行及び刊行と思われるものは、二点である。残る八点のうち四点は、弘法大師入定の一千百年にあたる昭和九年前後に刊行されている。

掛け軸のうち二点は、昭和初期の遍路の所持品に含まれていた。墨書から、巡拝の際に購入したものであることがわかる。

写本も同じく昭和初期の遍路の所持品で、『絵入四国八十八ヶ所 弘法大師山開』を写したものである。

(七)、四国遍路以外の巡礼・参詣関係資料

当館では、四国遍路以外の巡礼、参詣に関する資料も収集を進めている。収集の対象資料は、県内の人々も多く訪れた伊勢神宮、四国遍路のお礼参りとして参詣する人も多かった高野山、その習俗の多くが遍路にも取り入れら

れた西国巡礼、四国遍路と併せて参詣する人も多かった金毘羅権現に関する資料である。

伊勢参宮に関する資料は、パンフレットが二点、書籍が一点である。高野山に関する資料は、絵図が一点、パンフレットが二点である。西国巡礼に関する資料は、絵図が一点、書籍が四点、レコードが一点、文書が一点、刷り物が三点、その他が一点である。金毘羅権現に関する資料は、絵図が一八点、書籍が三点である。

金毘羅の絵図を多数収録し、松原秀明氏による分類・解説が掲載されている『町史ことひら五 絵図・写真編』に基づき当館所蔵の金毘羅の絵図を分類すると、象頭山と門前町の図が六点、大阪からの案内図が一点、紀州・京都からの案内図が三点、丸亀からの案内図が七点、その他が一点となる。また、目録中の金毘羅の絵図に付けた仮標題も、同書に拠っている。

尚、当館では金毘羅参詣、石鎚参詣に関する資料を他にも収集しているが、年中行事としての参詣の資料であるため、本目録には収録していない。

(八)、その他

ここには、(一)～(七)のいずれにも属さない資料を収録した。書籍が一点である。

『旅行用心集』は旅行全般について書かれている書籍であるが、四国遍路の関連資料として収録した。

(宮瀬 温子)

(註)

- (1) 当館蔵の細田周英作「四国徧礼絵図」は、小松勝記氏によって詳しく紹介されている。(四国遍路研究会編『四国遍路研究叢書 第四号【資料集】宝暦年間の納経帳と四国徧礼絵図』平成一六年)
- (2) 井上淳「四国西国順拝記」『愛媛県歴史文化博物館研究紀要』第六号 二〇〇一
- (3) 愛媛県史編纂委員会編『愛媛県史 民俗編 下』愛媛県、一九八四年
- (4) 松山市教育委員会編『おへんろさん―松山と遍路の民俗―』昭和五六年
- (5) 昭和一一年の遍路の所持品とその道中については、印南敏秀「戦前の女四国遍路」(岩井宏實編『技と形と心の伝承文化』慶友社、二〇〇二年所収)に詳しく記されているので参照されたい。
- (6) 本目録中の「県内公共資料館収蔵の四国遍路関係資料一覧」の町見郷土館(伊方町) NO.1011
- (7) 星野英紀氏は、この宿帳から詳細なデータを抽出し、昭和初期の遍路の動向・特徴について論じている。(星野英紀著『四国遍路の宗教学的的研究 その構造と近現代の展開』法蔵館 二〇〇一年)
- (8) 『町史ことひら 五 絵図・写真編』平成七年